



施設整備計画の総点検

1 目的

- ・ 感染症対策と社会経済活動の再開に向けた取組については、国の交付金等による財源措置はあるものの、企業の生産活動や消費の落ち込みによる県税収入への影響は避けられず、今後、大幅な財源不足が発生する恐れがある
- ・ また、新型コロナウイルス感染症は、事業の前提となる社会経済状況や県民の意識に大きな変化をもたらしており、改めて事業の目的、手法などを見直す必要が生じている

2 対象施設

- 動物管理指導センター
- 農林技術研究所 茶業研究センター
- 温水利用研究センター 沼津分場
- 遠州灘海浜公園 篠原地区野球場
- 県立中央図書館
- 県立学校等長寿命化（老朽校舎建替）

3 点検項目

- 施設の必要性
- 施設の機能
- 施設規模
- 整備手法
- 運営手法
- 整備スケジュール

4 今後の進め方

総点検結果に基づく見直しの方向性（案）については、今後、議会、県民、関係者等の意見を踏まえ、最終決定する

5 総点検結果

| 区 分 | 見直しの方向性（案） | スケジュール |
|-----------------------|--|---|
| 動物管理指導センター | <ul style="list-style-type: none"> ○ 県が単独で整備する方針を見直し、他施設との合築、併設など最適な整備・運営手法を検討する | <基本構想策定> R2 → R3 以降 |
| 農林技術研究所 茶業研究センター | <ul style="list-style-type: none"> ○ 老朽化のため、現計画どおり実施する ○ 圃場移転など研究棟以外の整備の一部を後年度に行う ○ 施工単価の実勢を踏まえ、施設整備費を抑制する | <研究棟> R2-4：設計 R5-6：工事【R6 開所】 ※ 圃場移転等は未定 |
| 温水利用研究センター 沼津分場 | <ul style="list-style-type: none"> ○ 新しい時代の栽培漁業の方向性を踏まえた施設とするため、国の次期栽培漁業基本方針が明らかになった時点で整備に着手する ○ その間、老朽箇所は修繕で対応する ○ 量産実証施設は沼津分場整備に先行して整備する | <沼津分場> R2 設計 → 国方針判明後に着手 <量産実証施設> R2-4：設計、工事【R5 開所】 |
| 遠州灘海浜公園 篠原地区野球場 | <ul style="list-style-type: none"> ○ アフターコロナに対応した施設とするため、「公園の配置計画に関する比較検討プラン原案」を見直す ○ 見直し案を作成した時点で、県民意見等を再聴取する ○ 野球場の先行整備を基本として、段階的に公園整備を行う | <基本計画策定> R2 → R3 以降 |
| 県立中央図書館 | <ul style="list-style-type: none"> ○ アフターコロナに対応した「新しい図書館」としての機能を検討する ○ 広くアイデア等を募り、新しい図書館の実現と県負担抑制の両立を目指す | R2：アイデアコンペ（追加） 整備計画策定 R3 以降：設計者公募 設計、工事 |
| 県立学校等長寿命化 （老朽校舎建替） | <ul style="list-style-type: none"> ○ 校舎建替は将来の県立高校のあり方を踏まえる必要があるため、第四次高校長期計画を前倒して検討・策定する ○ 計画策定までの間、R4より新規着手棟数を年5棟から4棟に見直す ○ 仕様を見直し、コストを縮減する | 第三次高校長期計画 計画期間 H30-R10 第四次高校長期計画を 前倒して策定 |